

夢を追いかけて地球を走る

倉敷市 市民ランナー

貝畑和子

幼いころはからだが弱く、体育の授業にすらでることができなかった私が、「走ること」にめざめ、そして走ることを通して経験させていただいたことについて述べていきたいと思います。

【近所の主婦からの“走ろう”の誘い】

1983年6月（当時30代）、小学生になったばかりの次男を白血病で亡くし、1年余り引きこもっていた頃、近所の主婦から“走ろう”との誘いが走るきっかけとなりました。初めて走った距離は200mくらいだったと記憶しています。朝5時に静かな街を走りだすと、風がとても心地よかった。2か月後に出場した市民大会の一般女性の部（5km）で5位に入賞することができ、より一層やる気がでました。そして、2年後にはフルマラソンに挑戦し、完走することができました。

【病との闘い】

2008年に大腸がんの告知を受け、手術にて大腸を10cm摘出しました。その間、入退院を12回繰り返す日々を送ることとなりました。しかし、抗がん剤治療が始まって3日後には走り始めていました。

【家族の支え】

私が大会などで不在のときは、夫が子守や家事を引き受けてくれました。長男は高校時代まで一緒に大会に出場していました。北米大陸横断に挑戦したとき、長女は車で伴走（水分補給のサポート等）をしてくれました。そして三男は大会にボランティアとして大会運営を手伝ってくれました。走っているのは私自身ではありますが、それまでの過程において家族の協力そして支えは、大きな原動力となって私を後押ししてくれています。

【走ることを通して、人に希望を！】

治療中に知り合った20代の女性がん患者が「新しい夢に向かって一歩踏み出す勇気をもらいました」と言って喜んでくれました。自分の走る姿が他の人に希望を与えることができると感じられた瞬間でした。

【主なマラソン経歴】

- ・2002年ランアクロスアメリカ（北米大陸横断レース 4960km、女性1位）
- ・2003年ヨーロッパ大陸横断レース（リスボン～モスクワ 5300km、2000km地点（パリ）にてリタイア）
- ・2004年シベリア大陸横断（ロシア サンクトペテルブルグ～ウラジオストク 10200km）
- ・2005年サハラレース（エジプト 250km、女性2位）
- ・2009年ヨーロッパ大陸横断レース（イタリア～ノルウェー4400km、女性3位）
- ・2012年ヨーロッパ大陸横断レース（デンマーク～ジブラルタル、女性2位）
- ・2014年ウルトラインディアレース（200km）
- ・2014年ウルトラボリビアレース（160km、標高 4000m）

【最後に】

振り返れば倉敷の街中からスタートした私のマラソン人生、今では多くの人々のご協力の下、国境を超え世界各国で走らせていただいています。夢を追いかけて世界中を走ってきたこの想いをみなさんにお伝えし、そして共有することができれば幸いです。